

令和6年10月11日
(2024年)

各所属長 殿

市 長

令和7年度予算編成方針について

令和7年度は本市にとって市制施行100周年を迎える記念すべき節目の年となりますが、一方で、赤字基調である本市の財務体質の改善が急務となっています。

「文教住宅都市・西宮」を、より魅力のあるまちとして、次の世代に引き継いでいくためにも、今年度に策定する「財政構造改善実施計画」の取り組みを早期・着実に推進する必要があります。

以上のことを踏まえて、新年度の予算編成に当たっては、次に掲げる基本方針に基づく予算となるよう留意してください。

1. 社会経済情勢と国の動向

内閣府がまとめた月例経済報告（令和6年9月）によると、今後の先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されるが、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があるとされています。

また、今年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2024」（いわゆる「骨太の方針」）では、当面の経済財政運営に向けた考え方として、人口減少や少子高齢化が急速に進行する中でも、活力ある持続可能な地域社会を実現するため、地域における人への投資、DX（デジタルトランスフォーメーション）・GX（グリーントランスフォーメーション）の推進や地方への人の流れの強化等による地域経済の活性化及び新たな雇用の場の創出に取り組むことなどがあげられており、地方自治体においても国の動向や経済状況を踏まえ、適切に施策を実施していく必要があります。

2. 本市の財政状況

令和5年度普通会計決算における実質単年度収支は38億8千万円の赤字で、前年度以上の多額の財政基金を取り崩して財源不足の補填を行ったところです。

今後の見通しについては、社会保障費の更なる増大や公共施設の老朽化対策などに加え、物価変動の影響や社会経済情勢の変化に伴って生じる様々な課題に取り組むための財政支出が見込まれます。

一方で、市税や地方交付税も含めて、歳出の伸びに見合った一般財源総額の確保が極めて難しくなるなど、非常に厳しい財政運営を強いられるものと考えています。

3. 予算編成に当たっての基本方針

予算編成に当たっては、下記の基本方針に沿って、別途指示する「令和7年度予算編成要領」に基づき取り組むこととします。

記

- (1) 今年度に策定する「財政構造改善実施計画」の実現に向けた初年度の予算編成となることを認識し、計画の趣旨に沿った効果額を生み出せるよう、あらゆる手段・取り組みを講じられたい。
- (2) 極めて厳しい財政状況であることを職員一人ひとりが十分に認識したうえで、限られた財源を重点施策に配分するため、枠配分予算だけではなく、個別査定予算や投資的事業予算などについても、予算全体で削減を図り、あらかじめ指示した一般財源の範囲内で予算編成を行うこととする。
- (3) 毎年多額の不用額が生じている事業については、執行見込額を厳しく精査したうえで予算計上すること。特に、社会保障費のように増加し続けることが見込まれる経費について、対象者数の伸びを適切に見込み、多額の不用額が生じないようにすること。

(4) DXや民間活力の導入、新たな手法の検討など、業務効率化や後年度の財政負担軽減につながる取り組みについてはその効果を十分に精査したうえで、財源確保を条件として認める。

(5) 新規事業や既存事業の拡充は、国や県の制度に基づき実施が必須の事業や、財政的な効果が見込める事業を除いて原則認めない。また、既存事業の実施にあたっては、国県支出金や寄附金、特定目的基金を最大限に活用するなど充当財源の確保を行い、可能な限り一般財源の圧縮に努めること。

以上